

**新規事業評価調書**  
**【都市公園事業】**

**まちづくり局公園緑地課**

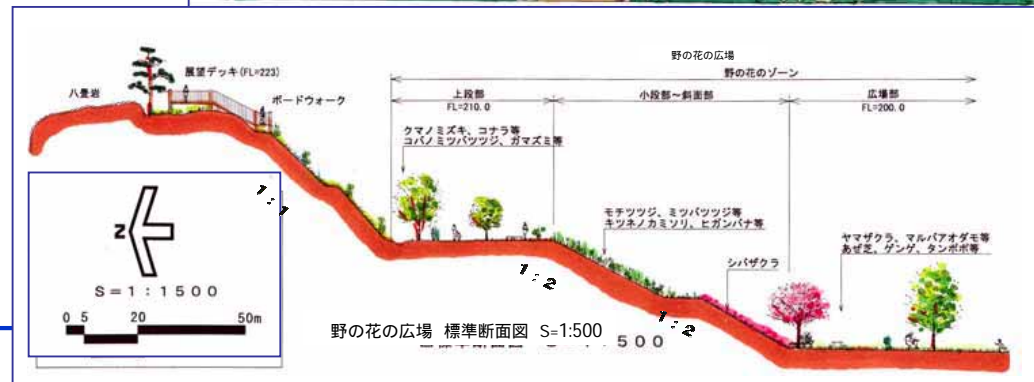
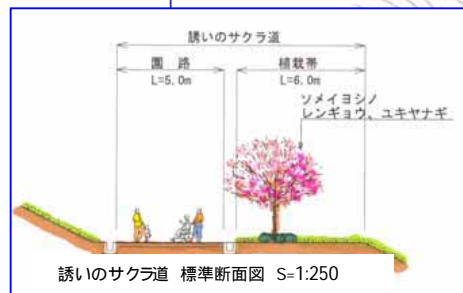
## 投資事業評価調書（新規）

部課室名	県土整備部まちづくり局 公園緑地課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	課長 橘 俊光 (技術指導係長 多田 欣也)	内線	4475 (4491)
------	----------------------	---------------------	---------------------------	----	----------------

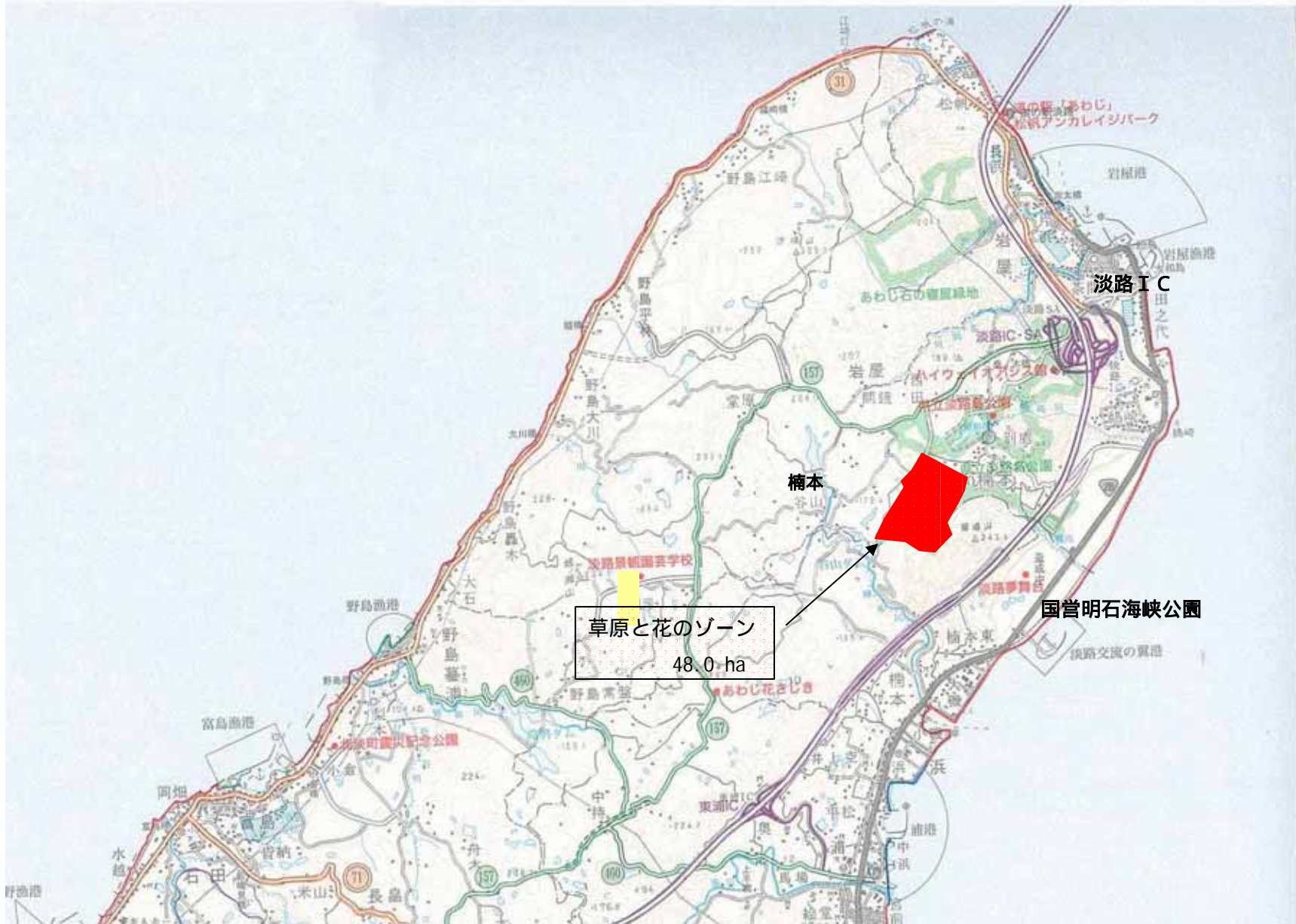
事業種目	都市公園	事業名	事業区間	総事業費		5.2 億円
		淡路島公園・草原と花のゾーン	淡路市 楠本	内用地補償費	-	
所在地			事業採択 予定年度	着工予定 年 度	完成予定 年 度	
淡路市 楠本			H20	H20	H22	
事業目的			事業内容			
<p>兵庫県立都市公園については平成 18 年 3 月に「兵庫県立都市公園の整備・管理運営の基本方針」を策定し、3つの目標(下記 ~ )を掲げ、圏域人口、自然環境等各公園の地域特性に応じ整備を進めている。その中で、淡路島北部の丘陵地帯に位置する「淡路島公園・草原と花のゾーン」は以下の目的(下記 ~ )の実現に向け事業化する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>安全・安心の地域づくりの拠点 広域的な防災拠点の確保 防災学習・防災訓練の場の確保 癒し・潤いの空間の創出</li> <li>自然環境を守るなど、地域に役立つ公園 森林の保全、荒廃の防止 地域の特色ある景観の保全 都市と地方の交流拠点・観光拠点の確保</li> <li>県民と共に育てる魅力ある公園 健康促進、レクリエーション空間の提供 環境教育・学習の場の創出 参画と協働を支えるコーディネーターとなる人材育成の場の創出</li> </ul>			<p>【草原と花のゾーン】</p> <p>面積 A = 48.0 ha</p> <p>園路(W=5.0m) = 1,500m 芝生広場(野の花の広場) = 1.8 ha 展望デッキ = 2基 パーゴラ = 3基 トイレ = 1箇所</p> <p>〔負担割合 国: 1/2, 県: 1/2〕</p>			
評価視点	評価結果の説明					
(1) 必要性	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全・安心の地域づくりの拠点 本公園は、兵庫県の「地域防災計画」において、災害時に 15km 圏域(圏域人口 48 千人)をカバーする物資集配及び集結基地として利用される広域防災拠点として位置づけられている。( <b>広域的な防災拠点</b> ) また、本事業により設置する約 18,000 m<sup>2</sup>の「野の花の広場」は、平常時の防災学習・防災訓練に利用可能である。( <b>防災学習の場</b> ) なお、本事業においては自生種を基本として樹種選定を行い、周辺の自然植生と調和した植栽を行うとともに、約 2,000 m<sup>2</sup>のシバザクラ及び、ヤマザクラやソメイヨシノなどの高木植栽により潤いある癒しの空間を確保する一方で、広場の周囲には幅員 5 m の園路を配置するとともに、身障者以外の一般車両は進入禁止とすることにより安心して散策等が楽しめる。( <b>癒し・潤いの空間</b> )</li> <li>自然環境を守るなど、地域に役立つ公園 本事業の植栽部分のほとんどは、過去に造成されたまま放置された区域で、降雨による土砂流出が発生しており、本事業の実施により緑化等の対策がなされる。( <b>森林の保全、荒廃の防止</b> ) また、本公園内には八畳岩と呼ばれる特色ある景観があり、本事業によってその保全を行うとともに、展望施設を設置し、多くの人々にその景観の提供が可能となる。( <b>地域の特色ある景観の保全</b> ) そして、本ゾーンは、本州四国連絡道路の淡路サービスエリアから 1.5 km と近接しており、ハイウェイオアシスと一体となったイベント開催などの連携により、阪神圏域の住民との交流拠点となる。 なお、本公園は淡路市総合計画において市域の主要な観光資源とされていることから、本ゾーンの整備による観光価値の高まりが期待されている。( <b>都市と地方の交流拠点・観光拠点</b> )</li> </ul>					

	<p>・ 県民と共に育てる魅力ある公園</p> <p>本ゾーンは最寄りの一般用駐車場から約 800mの位置にあり、本事業により整備する外周園路約 800mと併せて最短で約 30 分のウォーキングコースが設定可能となる。また、隣接するハイウェイオアシスゾーンの約 5 kmのウォーキングコースとも連結するため、ゆったりと時間をかけながら四季折々の自然を楽しむハイキングも可能であり、訪れる人々がマイペースで健康促進を図れ、レクリエーション空間の提供に寄与する。( <b>健康促進、レクリエーション空間の提供</b> )</p> <p>本公園では、ウグイス、カワセミ、ルリビタキ、ホオジロなど多くの野鳥が生息しており、本事業で整備するボードウォーク・園路では、その営みが間近で観察可能となり、環境教育・学習の場としての活用が可能となる。( <b>環境教育・学習の場</b> )</p> <p>また、既に開園している隣接の「森のゾーン・交流ゾーン」等を舞台とする管理運営協議会が設置されており、地域住民が主体となり様々な活動が積極的に展開されるとともに、公園の自然や成り立ちを分かりやすく解説する「インタープリター」養成講座が開催されている。本事業の実施により活動の舞台が広がり更なる人材育成の促進が期待される。( <b>参画と協働を支えるコーディネーターとなる人材育成の場</b> )</p>
(2) 有効性・ 効率性	<p>費用便益比 B / C = 2 . 2 0</p> <p>本事業計画においては、現況地形の改変を極力抑え、切土・盛土による土砂の搬入・搬出を少なくすることにより、工事用進入路となる市道・県道沿い住戸への影響を最小限とし、円滑な事業執行が図られると考えられる。</p> <p>本事業は既に用地確保されており、用地買収・補償による課題は無く、円滑な事業執行環境が整っている。</p>
(3) 環境適合性	<p>本事業地内においては、過去の造成によりほとんど植生がない裸地が広がっており、本事業の実施により約 30,000 m<sup>2</sup>の緑化がなされる。</p> <p>本公園では淡路地域の自生種による植栽を積極的に行い、地域の自然植生・生態系への影響を極力乱さないよう配慮する。</p> <p>園内には、兵庫県版レッドデータブックに記載されている貴重種である鳥類が生息している。(カワセミ：Bランク、ルリビタキ：Cランク)本事業においては、面積 48.0ha のうち必要最小限な整備(約 6.0ha)にとどめることにより生息環境への影響に配慮する。</p>
(4)優先性	<p>東南海・南海地震発生の危険性が高まるなか、広域防災拠点としての機能増進を行うため、本事業の早期実施を図る必要がある。</p> <p>本事業地は平成 16 年度に大きな降雨被害を経験した淡路市に位置しており、本事業地内において過去に造成されたまま放置された区域から毎年発生している降雨による土砂流出に対して、本事業の実施による早期の対策が求められている。</p> <p>淡路島の観光入り込み客数は、明石海峡大橋が開通した平成 10 年度をピークに減少傾向にあり、魅力ある観光・交流拠点の早期充実が求められている。</p> <p>本ゾーンに隣接する「森のゾーン・交流ゾーン」を活動の舞台とする管理運営協議会は、炭づくりなど地域の自然を活用した積極的な取り組みを展開しており、活動の場の更なる拡大が求められている。</p>

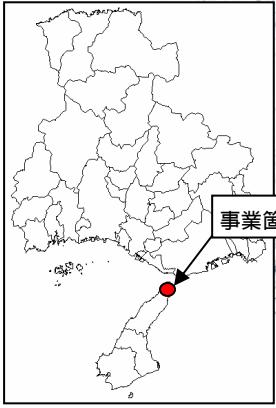
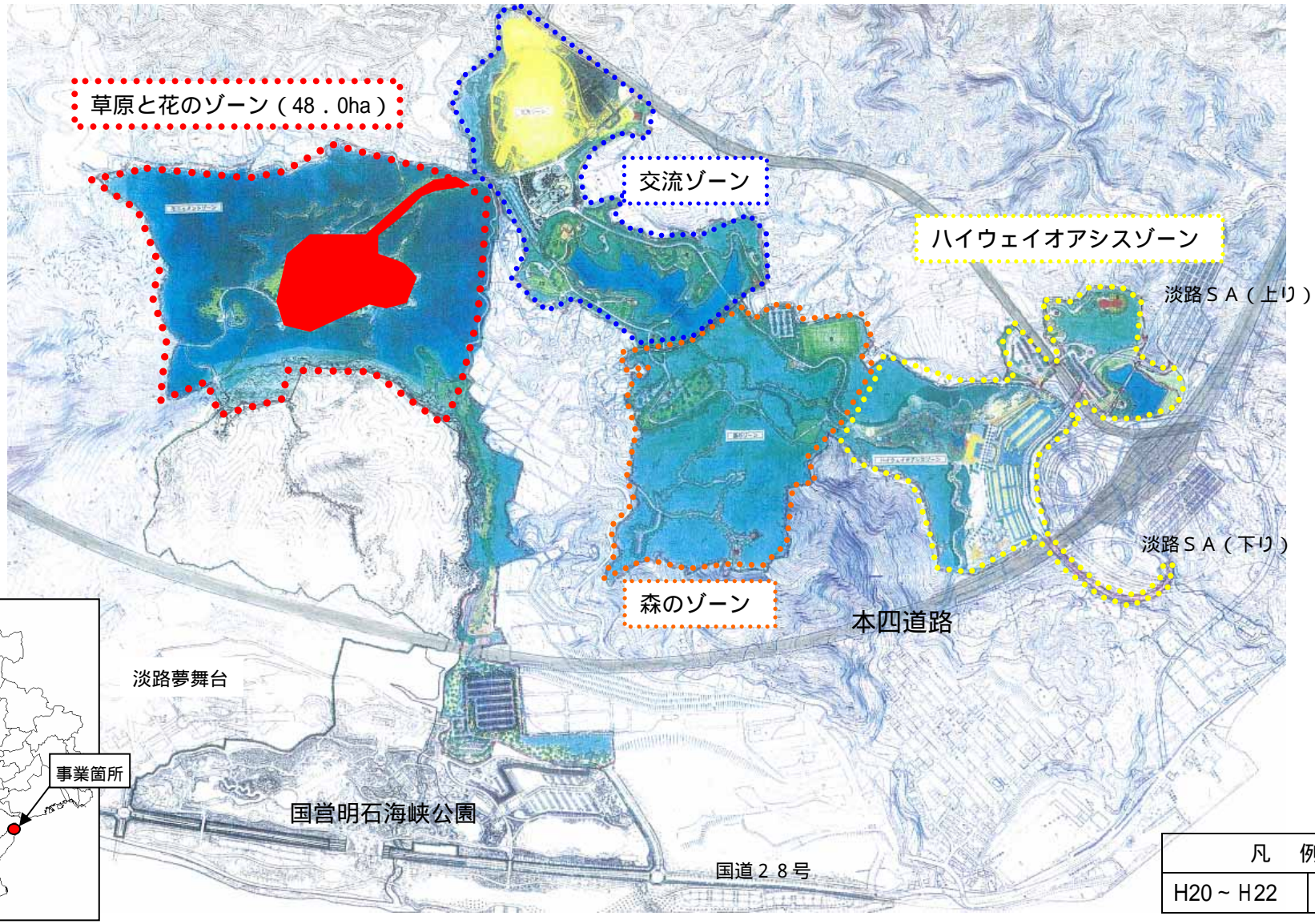
# 県立淡路島公園 『草原と花のゾーン』 計画平面図



淡路島公園（草原と花のゾーン）位置図



# 【淡路島公園計画位置図】



凡 例	
H20 ~ H22	赤